

天草市五和町小串地域の完新統浅海貝類化石と 一尾貝塚の貝類遺物との群集比較

鵜飼 宏明・廣瀬 浩司・長谷 義隆

(天草市立御所浦白亜紀資料館 〒866-0313 熊本県天草市御所浦町御所浦 4310-5)

Comparison of Holocene Molluscan fossils in Ogushi area and Molluscan assemblage
of the Futo shell midden, Itsuwa Town, Amakusa City,
Kumamoto Prefecture, Japan

Hiroaki Ugai, Koji Hirose and Yoshitaka Hase

(Goshoura Cretaceous Museum, Goshoura 4310-5, Goshoura Town, Amakusa City, Kumamoto Pref. 〒866-0313, Japan)

Abstract

Five species of Gastropoda and ten species of Bivalvia were identified from the Holocene deposits in the eastern coastal lowland of Itsuwa Town, Amakusa City. This Holocene deposit is dated at 5460 ± 40 y BP by conventional radiocarbon age. Molluscan assemblage is inhabited on the muddy bottom of lower to middle tidal flats. Four species of Bivalvia, which are distinguished from the shell mount assemblage, have thin and small shells.

Key words : 一尾貝塚, 縄文海進期, 貝類群集

はじめに

天草市五和町東部の小串地区を含む佐伊津から御領にかけての地域は、天草の鮮新統から更新統の地層の模式地の分布などから、天草の鮮新統以降の層序を知る上で重要である。また、御領は縄文中期から後期の土器を伴う一尾（ふとお）貝塚が知られており、人類史にも重要な遺跡を含む地域である。五和町史編集委員会（2000）は一尾貝塚の自然遺物として 62 種類の汽水域、内湾泥底、潮間帯の泥底、潮間帯の岩礁、水深 20 から 50m の砂底に棲息する貝類を報告している。貝類は食用または装飾品の材料として集められており、自然群集を示すものではない。天草地域では、一尾貝塚や沖ノ原貝塚に代表される貝塚に貝類群が知られている一方で、自然群集はあまり知られていない。

天草市は 2008 年 12 月 15 日に中山間地域総合整備事業として、小串地域で耕地の 1 立方メートルを掘上げ予備調査を行った（図 1）。掘り出した堆積物には多くの現地性の産状を示す海生貝類が含まれてい

た。本研究は、この堆積物の堆積時代を明らかにするとともに、含まれる貝類群集を基に当時の堆積環境推測を目的とする。また、一尾貝塚の貝類と群集比較を行い、当時の人々の生活感を推測した。

堆積層

堆積物は礫と多くの貝類を含む未固結の砂層である。土器などの人工物は含まれていない。整備事業で貝類化石の掘り出された場所は谷を埋める耕作地である。この地点から 5m ほど南の同じ耕作地にてハンドコアリングを行った。地表より 5m10 cm 地下まで掘削する事ができた（図 2）。

堆積層の年代

堆積層は整備事業で掘り出され、採集したオキシジミの合弁個体を用いて放射性炭素年代測定を行った結果、 ^{14}C 年代 $5,460 \pm 40$ (yBP) となり、縄文海進期に形成されたものである（表 1）。

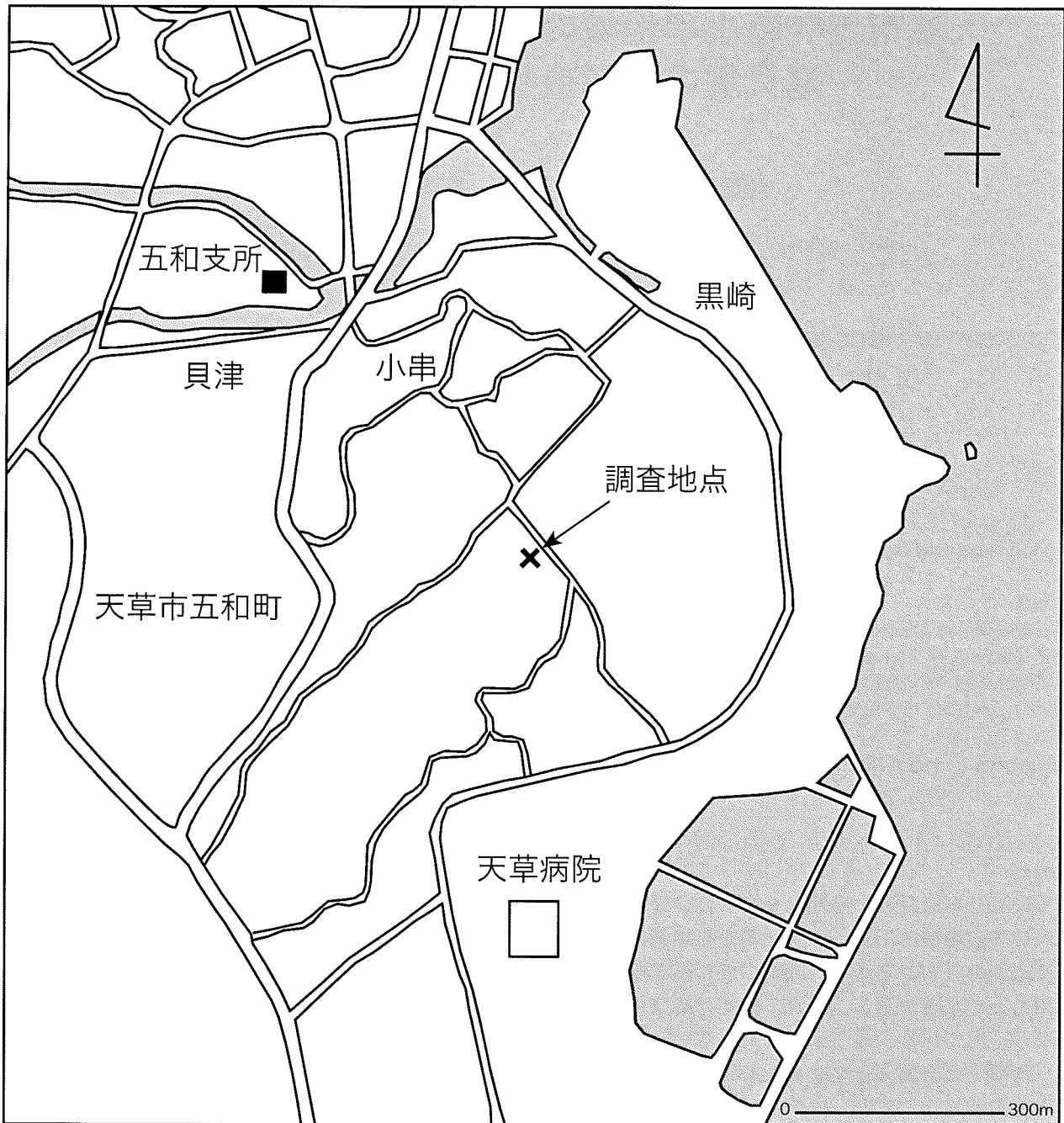


図 1. 調査地点の位置図

貝類化石採集方法

貝類は掘り上げられた状態の堆積物から、現地でより多くの種類を集める手法と、持ち帰った堆積物のブロックから拾い出しを行なう二通りの手法で採集した。

貝類群集

整備事業で掘り出された貝類化石はハンドコアリングとの比較で、地表から 60 cm～90 cm 地下に見ら

れる含貝類化石層に対比される (図 2)。

堆積物から採集された貝類は、巻貝 5 種、二枚貝 10 種であった (表 2)。スガイは蓋を閉じた状態であった。ウネナシトマヤガイ、サクラガイ、イチョウシラトリ、ウスハマグリの二枚貝は離弁状態であったが他の二枚貝 6 種は合弁で産出した。貝類は加工されたもの、不自然に割られた形跡のみられるものはなかった。

表 1. 貝化石を用いた堆積層の年代測定結果

資料	測定方法	未補正 ¹⁴ C年代(y BP)	δ ¹³ C (permil)	¹⁴ C年代 (y BP)
貝化石 (オキシジミ) <i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)	AMS-Standard	5060±40	-0.6	5460±40

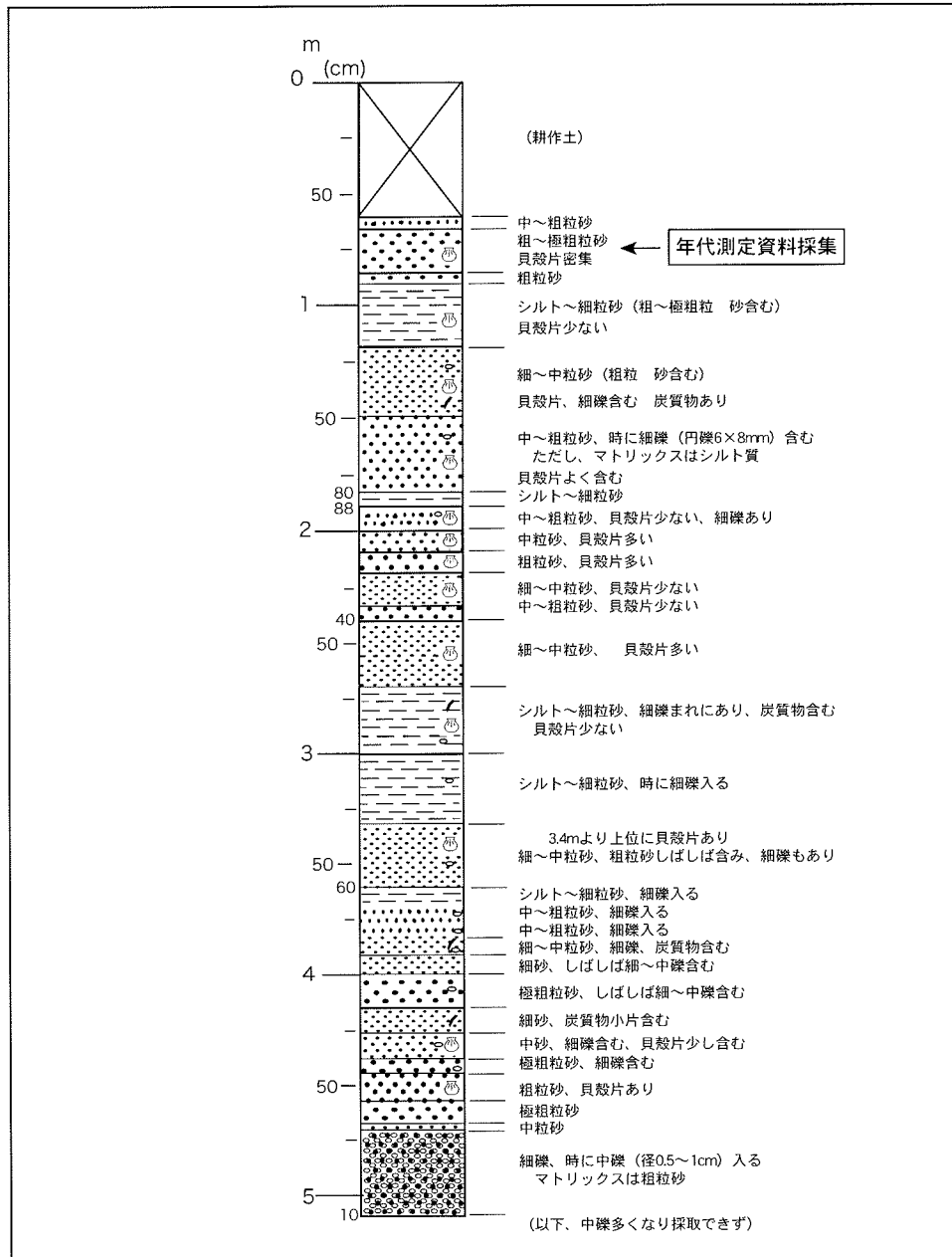


図 2. ハンドコアリングで得られた堆積物の柱状図

貝類群集はウミニナ, ヘナタリ, イボウミニナ, マガキ, オキシジミ, シオヤガイ, アサリ, オオノガイの多くの個体得られるグループと, スガイ, アカニシ, ウネナシトマヤガイ, サクラガイの各種1個体得られただけのグループに分けられる。前グループの巻貝は, 破損やフジツボの付着した個体および保存状態の良好な個体が含まれる。また, 二枚貝はすべての種において合弁個体が得られた。後グループのアカニシは殻の殻頂部と軸部が保存されているだけであった。また, 二枚貝はそれぞれ離弁

した個体である。以上のことから, 前グループを構成する貝類が現地性を示すことが考えられる。前グループの貝類の棲息環境は現生種であることから, 奥谷 (2000) による棲息場所を引用すると内湾潮間帯中部から下部となる (表 2)。

一尾貝塚との貝類群集比較

一尾貝塚の貝類は巻貝類 34 種, 二枚貝類 27 種が報告されている (五和町史編集委員会, 2000)。小串地域から採集した自然貝類群集と一尾貝塚の貝類群

表 2. 小串地域で採集された貝類化石と現生種の棲息場所. 棲息場所は奥谷 (2000) による

腹足綱 Gastropoda			
標本 Specimen	科 Family	学名 Scientific name	棲息場所
スガイ	サザエ科 Turbinidae	<i>Turbo (Lunella) coronatus coreensis</i> (Recluz)	潮間帯岩礁
ウミニナ	ウミニナ科 Batillariidae	<i>Batillaria multiformis</i> (Lischke)	潮間帯の泥底上
イボウミニナ		<i>Batillaria zonalis</i> (Bruguiere)	内湾の潮間帯中部-下部
ヘナタリ	フトヘナタリ科 Potamididae	<i>Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata</i> (Gmelin)	汽水域, 潮間帯, 内湾の干潟
アカニシ	アッキガイ科 Muricidae	<i>Chicoreus asianus kuroda</i>	水深 30m 以下の砂泥底
二枚貝綱 Bivalvia			
マガキ	イタボガキ科 Ostreidae	<i>Crassostrea giga</i> (Thunberg)	汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の礫底
イチョウシラトリ	ニッコウガイ科 Tellinidae	<i>Pistris capsoides</i> (Lamarck)	内湾湾奥部や河口部の潮間帯中下部泥底
サクラガイ		<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> (Habe)	潮間帯から水深 80m の細砂底
ゴイサギ		<i>Macoma tokyoensis</i> Makiyama	水深 10 から 50m の砂泥底
ウネナシトマヤガイ	フナガタガイ科 Trapezidae	<i>Trapezium liratum</i> (Reeve)	汽水域潮間帯の礫
シオヤガイ	マルスダレガイ科 Veneridae	<i>Anomalocardia squamosa</i> (Linnaeus)	内湾干潮帯の泥底
ウスハマグリ		<i>Pitar japonicus</i> Kuroda & Kawamoto in Kawamonoto	水深 5 から 50m の細砂底
アサリ		<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams & Reeve)	潮間帯中部から水深 10m の砂礫泥底
オキシジミ		<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)	潮間帯下部から水深 20m の砂泥底
オオノガイ		オオノガイ科 Myoidae	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama

集との共通種は巻貝 5 種すべて, 二枚貝 6 種であった (表 3)。共通する貝類は, 現在の天草地域で食用として採集されている。一方, 一尾貝塚に含まれていない 4 種はいずれも成貝で 2~3 cm 程度の二枚貝である。現在, これらの貝類は食用または装飾品に利用されていない。一尾貝塚を形成した当時の人々にとって, これらの貝類は小さいことで, 食用としての価値が低かったことが考えられる。また, サクラガイは殻の色が美しい二枚貝であるが, 殻が薄く加工が困難であり, 装飾品としての利用価値が低

かったと思われる。

謝辞

本調査報告にあたり, 調査許可を頂いた土地所有者の方, および産地の情報提供に協力して頂いた天草市役所の方々に感謝いたします。また, 熊本県地域振興部文化企画課には松橋収蔵庫所蔵のハンドボーリング装置の使用を認めて頂いた。記して謝意を示します。

表 3. 小串地域で採集された貝類化石と一尾貝塚との貝類群集比較

標本 Specimen	小串地域 (本研究)	一尾貝塚 (五和町史編纂委員会, 2000)
腹足綱 Gastropoda		
スガイ	○	○
ウミニナ	○	○
イボウミニナ	○	○
ヘナタリ	○	○
アカニシ	○	○
二枚貝綱 Bivalvia		
マガキ	○	○
イチョウシラトリ	○	-
サクラガイ	○	-
ゴイサギ	○	○
ウネナシトマヤガイ	○	-
シオヤガイ	○	○
ウスハマグリ	○	-
アサリ	○	○
オキシジミ	○	○
オオノガイ	○	○

引用文献

五和町史編纂委員会 (2000) :

五和町史資料編 (その 11) 「一尾貝塚」熊本県天草郡五和町大字御領字浜田所在縄文時代貝塚の調査. 熊本県天草郡五和町教育委員会, 133 p.

れない 4 種の二枚貝はいずれも小型で, 殻が薄いなどの特徴が認められた.

奥谷喬司 (2000) : 日本近海産貝類図鑑.

東海大学出版会, 1173 p.

(2009 年 1 月 30 日受理)

要旨

天草市五和町東部の小串地域に分布する縄文海進期の堆積物より, 現生種に同定される巻貝 5 種, 二枚貝 10 種を含む貝類化石を採集した. 貝類群集は自生産状を示し, 内湾潮間帯中部から下部に棲息する種より構成されている. 一尾 (ふとお) 貝塚に含ま

图 版 1

図版 1 の説明

図版のスケールバーはすべて 1 cm を示す.

1a, b.	スガイ	<i>Trubo (Lunella) coronatus coreensis</i> (Recluz)
2a, b.	ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i> (Lischke)
3a, b.	ヘナタリ	<i>Cerithidea (Cerithideopsilla) cingulata</i> (Gmelin)
4.	イボウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i> (Bruguière)
5.	アカニシ	<i>Rapana venosa</i> (Valenciennes)
6a, b, 7.	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i> (Thunberg)
8a, b.	イチヨウシラトリ	<i>Pistris capsoides</i> (Lamarck)
9a, b.	ゴイサギ	<i>Macoma tokyoensis</i> Makiyama
10a, b.	サクラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i> (Habe)
11a, b, 13.	シオヤガイ	<i>Anomalocardia squamosa</i> (Linnaeus)
12a, b.	ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i> (Reeve)
14a, b.	ウスハマグリ	<i>Pitar japonicus</i> Kuroda & Kawamoto in Kawamonoto
15, 16, 17.	アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i> (Adams & Reeve)
18, 19.	オキシジミ	<i>Cyclina sinensis</i> (Gmelin)
20.	オオノガイ	<i>Mya (Arenomya) arenaria oonogai</i> Makiyama

